文=島 泰三　写真=阿部雄介
text : Taizo Shima photographs : Yusuke Abe

北海道 旭山動物園の「シンリンオオカミ」

Eastern Timber Wolf

旭山動物園は正面入り口から入ると
旭山の斜面につくられていることがよくわかる。
旭川空港、旭川駅からバスで約40分。

シンリンオオカミは、ユーラシア大陸と北アメリカ大陸北部のほぼ全域に分布する最大・最強のイヌ科動物である。
約1万5000年前にオオカミから家畜のイヌが生まれたほどに、オオカミは常に人に近いところにいた。

『遠吠えの深い意味は、山にしかわからない』

まっすぐに天を向いて吠えるオオカミの声には、脅しや呼びかけや縄張りの主張を超えた何ものかがある。
それは歌なのだろうか？　あるいはまた、祈りなのか？

新雪のように透明な輝きのある声

朝日に輝く白銀の山が吠えた。高く晴れた吸い込まれそうなほどに青い空（カンド）もまばゆい太陽（チュプ）も雪の中に咲く花（ノンノ）も遠吠えに加わった。オオカミの一族が豪雪明けの朝空に向かって、とがった口先を開いていた。

ちょうどその朝に積もった新雪のように透明な輝きのある力強い声で、神秘的な魔力に満ちた合唱だった。その木霊（こだま）は白銀の山へ谷へ、そして見晴らす旭川の白一色の大平原に浸みこむように鳴り渡った。それは今では北半球寒帯の大森林地帯でしか聞くことのできない「野生の呼び声」であり、まことに希有の体験だった。

大雪の山々は久しく開かなかったオオカミの遠吠えに、新鮮な思いを抱いているのだろう。しかし、「その遠吠えの深い意味は、山にしかわからない*」。

種明かしをしよう。「開園、閉園の音楽といっしょに流すお知らせの声にオオカミが反応するのですが、誰の声にでも反応するわけではなく、いつでも反応するわけでもないのです」と、坂東元（げん）園長は淡々と解説する。だから、旅人は幸運を待たなくてはならない。

多くの人が知っているように、この「オオカミの森」は旭山動物園の一部にすぎない。「ペンギンの散歩」「チューブを昇るアザラシ」「ダイブするホッキョクグマ」「空中散歩するオランウータン」などなど、日本中に知られた数多くの主演俳優たちが旭山動物園を沸き立たせている。それらを維持し続けるだけでなく、さらにその上に新しい魅力が付け加えられて、この動物園を訪れる人の数は300万人のピークから下がったとはいえ、日本最大規模のままである（2011年度は約172万人）。

絶滅危惧種の故郷に恩返しを

それだけではない。かつて、極寒の僻遠の地として北海道に住む人々からさえも敬遠されてきた旭川は、東アジアの重要観光拠点となっている。10年ほど前から韓国や香港、台湾、南中国からのお客さんが増えて、今やタイ、シンガポール、マレーシアからもお客さんが訪れるほどである。

JR旭川駅舎は木目の内装も麗しく新築改装され、駅前に巨大スーパーが建設中である。かつて考えられもしなかった地域経済への起爆力を動物園が持つことが証明された。だが、その立役者である坂東園長は昔と変わらぬ一途な表情で、ひたすら熱く語る。

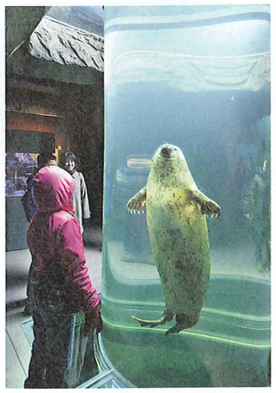
「動物園の役割は絶滅危惧種の保存ということに止まってはならない。その動物の故郷に何かをお返ししなくてはならないんです」

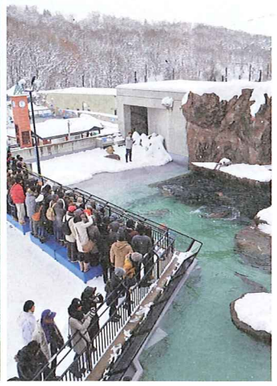
そのひとつが、ボルネオゾウ・レスキュー・センター構想であり、その基金の収集から設備の設計、管理まで旭川市がかかわるという。しかし、この稀代の動物園設計者はさらに遠くを見ている。

今秋には大型草食獣館（仮称）が開館する。『これがカバか！』というものになるはずです」と断言した坂東園長の目は、オオカミの目のようにきらりと光った。

山谷も
嘉し給える
遠吠えは
人仰ぎみる
オオカミの声

雪の中のライオンが人をにらみつけ、飛びかかり、アクリルの壁をひっかき回す姿は、本物の捕食動物だけが持つ恐ろしい力にあふれている。旅人は怯え、フォトグラファーの阿部さんは跳び上がって逃げようとした。





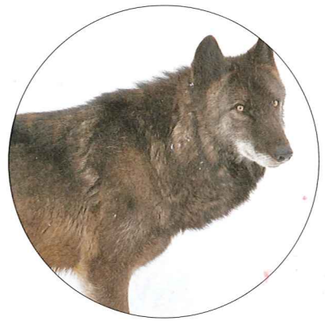
左／「旭山」の名を日本動物園の歴史に永久に刻み込んだ、チューブを上るゴマフアザラシ。それまで何びとも思いつかなかった新しい野生の姿だった。
右／閉園寸前の旭山動物園を立て直した「もぐもぐタイム」は今なお健在。飼育人の思いを観客に伝えて、観客が動物園の意味を考え直す貴重な機会をつくっている。

お問い合わせ：旭川市旭山動物園　☎0166-36-1104

ホワイト&ホワイト♪

オオカミは、人間には聞こえないコウモリやイルカの発する音の周波数帯（26キロヘルツ）までも聞き分ける超能力者である。

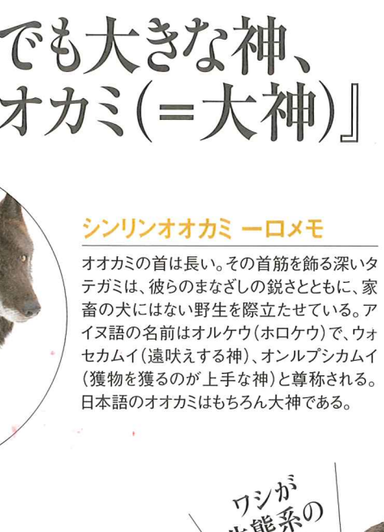
『神は神でも大きな神、だからオオカミ（＝大神）』



シンリンオオカミ ーロメモ

オオカミの首は長い。その首筋を飾る深いタテガミは、彼らのまなざしの鋭さとともに、家畜の犬にはない野生を際立たせている。アイヌ語の名前はオルケウ（ホロケウ）で、ウォセカムイ（遠吠えする神）、オンルプシカムイ（獲物を獲るのが上手な神）と尊称される。日本語のオオカミはもちろん大神である。

ワシが生態系の頂点じゃ



*北海道産動物舎。ユキウサギやエゾタヌキやキタキツネの上に大きく広がるオオワシやオジロワシのケージが、北海道の生態系を象徴している。

上／北海道には18種ものフクロウ・ミミズク類がいる。
その最大級のワシミミズクには「威厳」という尊称を捧げたい。
中／レッサーパンダは雪の中でも平気で、日本最高齢26歳のおばあさんも元気だ。
下／ここはニホンザルの「最北」の生息場所。親子が気持ちよくグルーミング中。

画家・あべ弘士のアートは園内随所に展示され、この動物園の独創性を際立たせている。野生動物を知るだけでなく、それらを飼い、生かし続けることのできる技能者の誇りが薫り立つ。

雪景のキリン。
夢でしか見られない光景を実現したのは、キリンについての本物の知識と情熱に裏打ちされた飼育技術である。

*Aldo Leopold, "A Sand County Almanac", 1949, p.137.